

1. ソ連崩壊以降の主な政治的動き

- 1991.12 ソ連崩壊、ロシア連邦誕生、初代大統領はエリツィン
- 1993.12 ロシア新憲法発効
- 1999.8 プーチン新首相就任
- 1999.12 エリツィン大統領辞任、プーチンが大統領代行に就任
- 2000.5 プーチンが第2代ロシア連邦大統領に就任
- 2004.5 プーチンが2期目の大統領に就任
- 2005.11 メドベージェフが第一副首相に就任
- 2008.5 メドベージェフが第3代大統領に就任、プーチンが首相に就任
- 2008.11 憲法改正により、2012年から大統領の任期を6年に延長
- 2012.5.7 プーチンが第4代大統領に就任(任期は2018年まで)、メドベージェフを首相に任命
(『ロシアの論理』(武田善憲)の12ページの年表を参考)

2. ロシアの連邦議会の仕組みと構成会派

○連邦議会とは

→ ロシア連邦憲法(1993年制定)により設置された機関。

上院(連邦院、連邦議会)と、下院(国家院、国家会議、国家ドゥーマ)からなる。

○上院(連邦院)

→ 連邦構成主体の行政府・立法機関の代表各1名からなる。

なお、連邦構成主体とは、46の州、9の地方、2の市、21の共和国、1の自治州、4の自治管区があり、合計83である。

○下院(国家院、国家会議、国家ドゥーマ)

→ 完全比例代表制の選挙により、議員を選出。

現在の会派構成は以下の通り(2011年12月の選挙で選出)

(カッコ内は、前回選挙からの増減)

統一ロシア(与党、中道右派)...	238 議席(-77)
ロシア連邦共産党(左派)...	92 議席(+35)
公正ロシア(中道左派)...	64 議席(+26)
ロシア自由民主党(極右政党)...	56 議席(+16)
合計...	450 議席

3. 大統領と議会の関係

大統領の権限が非常に強く、議会の権限は限定的(「スーパー大統領制」)。

大統領は、以下のような権限を持つ。

- ▽首相及び内閣と政府要職の指名・任免権(但し首相は下院の承認が必要)
- ▽国家会議(下院)の解散権(但し下院での内閣不信任が必要)
- ▽大統領令の発布
- ▽議会で可決された法案の拒否権

- ▽軍の指揮権
- ▽戒厳令・非常事態宣言の発令
- ▽国民投票の実施権

4. ロシアの国内経済

世界有数の資源大国(とくに、石油と天然ガス)

→これらが、国内産業の育成と外貨獲得において、重要な役割を果たしている。

とくに、ソ連崩壊以降に台頭した「オリガルヒ」が、大きな力を持っている。

「オリガルヒが短期間に富豪に仲間入りできたのは、端的に言えば、ソ連やロシアの国家資産を不法ないし不正に略奪してきたからである。それを可能にしたのが、急速な私有化と、為政者との結託だ。」(『現代ロシアを知るための 55 章』より)

たとえば、メドベージェフは、ロシア最大の政府系企業であるガスプロムの会長を務めていた。

5. 対外経済戦略

石油と天然ガスの豊富な資源を背景にした経済戦略を展開している。

[参考:毎日.jp のウェブサイトより]

前原政調会長:訪問のロシアで、宗谷海峡にパイプライン案

毎日新聞 2012年05月03日 20時57分(最終更新 05月03日 22時25分)

【モスクワ大前仁】ロシアを訪問中の前原誠司・民主党政調会長は3日、天然ガス独占企業「ガスプロム」のメドベージェフ副社長と会談した。ロシアから日本へ向けたガスパイプライン敷設の可能性を検討する考えを示し、候補ルートの一つとして「(サハリン南端から)40キロのパイプラインで稚内へつなげられる」と述べた。

日本は現在、ロシア・サハリン沖の資源開発事業「サハリン2」から液化天然ガス(LNG)を輸入するほかにも、ロシアと協力して極東ウラジオストクにLNG生産施設の建設を計画。パイプライン敷設案は、将来的なエネルギー協力の一環として会談で取り上げられた。メドベージェフ氏は前原氏の発言について「技術的に実現可能で、考慮に値する」と応じたという。

6. 国内の課題

ソ連崩壊以降、以下のような問題が山積している。

- 貧困と所得格差の拡大
- 医療の有料化による、必要な医療を受けられない人の増加
- チェチェン紛争をはじめとする民族紛争

など(『新ロシア経済図説』ほか参考)

※主な参考文献

『ロシアの論理』(武田善憲著、中公新書)

『現代ロシアを知るための 55 章』(下斗米伸夫・島田博編著、明石書店)

『新ロシア経済図説』(岡田進著、東洋書店)

Wikipedia のウェブサイト